

The Ascent to Truth

by John Louis

ΚΑΒΥΛΩΝΟΘΣΗ
ΜΕΡΑΣΣΙΧΜΕΤΑ
ΕΩΣΗΜΕΡΑΘΗ
ΑΠΙΣΟΛΗΝ

ΜΟΝΙΜΗΤΟΝ
ΠΙΣΤΑΙΟΥΜΜΕΝ
ΛΑΩΝΕΤΟΝΗΘΗ
ΧΗΡΑΠΙΣΤΑΙΟΥ
ΜΕΝΗΕΝΟΝΕΓ
ΑΡΧΟΥΣΑΝΧΩΡ
ΕΤΕΝΗΘΗΕΙΣΦ
ΡΟΝ

ΩΝΟ
ΚΑΛΟΥΣΑΚΑΛΥ
ΣΕΝΕΝΥΙΟΤΗΜ

ΕΙΣΕΚΚΙΣΤΗΟΥ
ΑΛΙΑΑΠΟΤΑΘΝΕ
ΣΕΩΣΑΥΤΗΚΑ



第五章：

バプテスマとレビ記における
赤い鳥のいけにえ

本日のテーマ：
バプテスマ

まず自分のバプテスマの事を思い
出しながら今日のクラスに臨み
ましょう

ヘブライ 9:5

“また、箱の上では、栄光の姿のケルビムが償いの座を覆っていました。こういうことについては、今はいちいち語ることはできません。”

旧約と新約の強いつながりを理解するために
詳細に入り込むことは適切であり重要です。

ヘブライ 10:1

いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。

旧約聖書と新約聖書の結びつき。

- 1) Foreshadow (前兆・予示) 旧約時代のささげものと新約時代のいけにえ
- 2) Prefigure (予示された形)
アダム、ヨセフ、モーセ、ヨシュア→イエス
- 3) TYPE (型) エルサレム
- 4) ANTITYPE (対型・予表) 天国

TYPE(型) 赤い鳥

ANTITYPE(対型・予表) キリスト

TYPE(型) イサクのいけにえ

ANTITYPE(対型・予表) キリストの十字架

TYPE(型) 赤い雌牛 (RED HEIFER)

ANTITYPE(対型・予表) キリストの十字架

レビ記 13: 46

“この症状があるかぎり、その人は汚れている。その人は独りで宿営の外に住まねばならない。

癒しは神の力によって起こるべきものであり、自身の癒しを確信した後に共同体の宿営に戻るのには、重い皮膚病にかかった人が自らを診察するのでは十分ではなく、祭司によって清いと宣言されなければならず、その時にはいけにえを献げることによる清めの過程を彼自身が経験しなければなりません。

レビ記 14: 1-9


主はモーセに仰せになった。以下は重い皮膚病を患った人が清めを受けるときの指示である。彼が祭司のもとに連れて来られると、祭司は宿営の外に出て来て、調べる。患者の重い皮膚病が治っているならば、祭司は清めの儀式をするため、その人に命じて、生きている清い鳥二羽と、杉の枝、緋糸、ヒソプの枝を用意させる。次に、祭司は新鮮な水を満たした土器の上で鳥の一羽を殺すように命じる。それから、杉の枝、緋糸、ヒソプおよび生きているもう一羽の鳥を取り、さきに新鮮な水の上で殺された鳥の血に浸してから、

続き。。。

レビ記 14: 1-9 , (続き)

清めの儀式を受ける者に七度振りかけて清める。その後、この生きている鳥は野に放つ。清めの儀式を受けた者は、衣服を水洗いし、体の毛を全部そって身を洗うと、清くなる。この後、彼は宿営に戻ることができる。しかし、七日間は自分の天幕の外にいななければならない。彼は七日目に体の毛を全部、すなわち、頭髪、ひげ、まゆ毛、その他の毛もすべてそる。そして、衣服を水洗いし、身を洗う。こうして、彼は清くなる。

I. 捕らえられた鳥



いけにえとされる鳥は罪のない、生きて
いる、清い鳥です。

これはイエスを表わして、彼自身が
「捕らえられ」、わたしたちのために十
字架上で死ぬことによりわたしたちの
罪を背負われされました。

フィリピ 2: 5-7

“互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。”

全く罪のない、その生きている鳥はその身に何が起こるかさえも知らなかったでしょう。

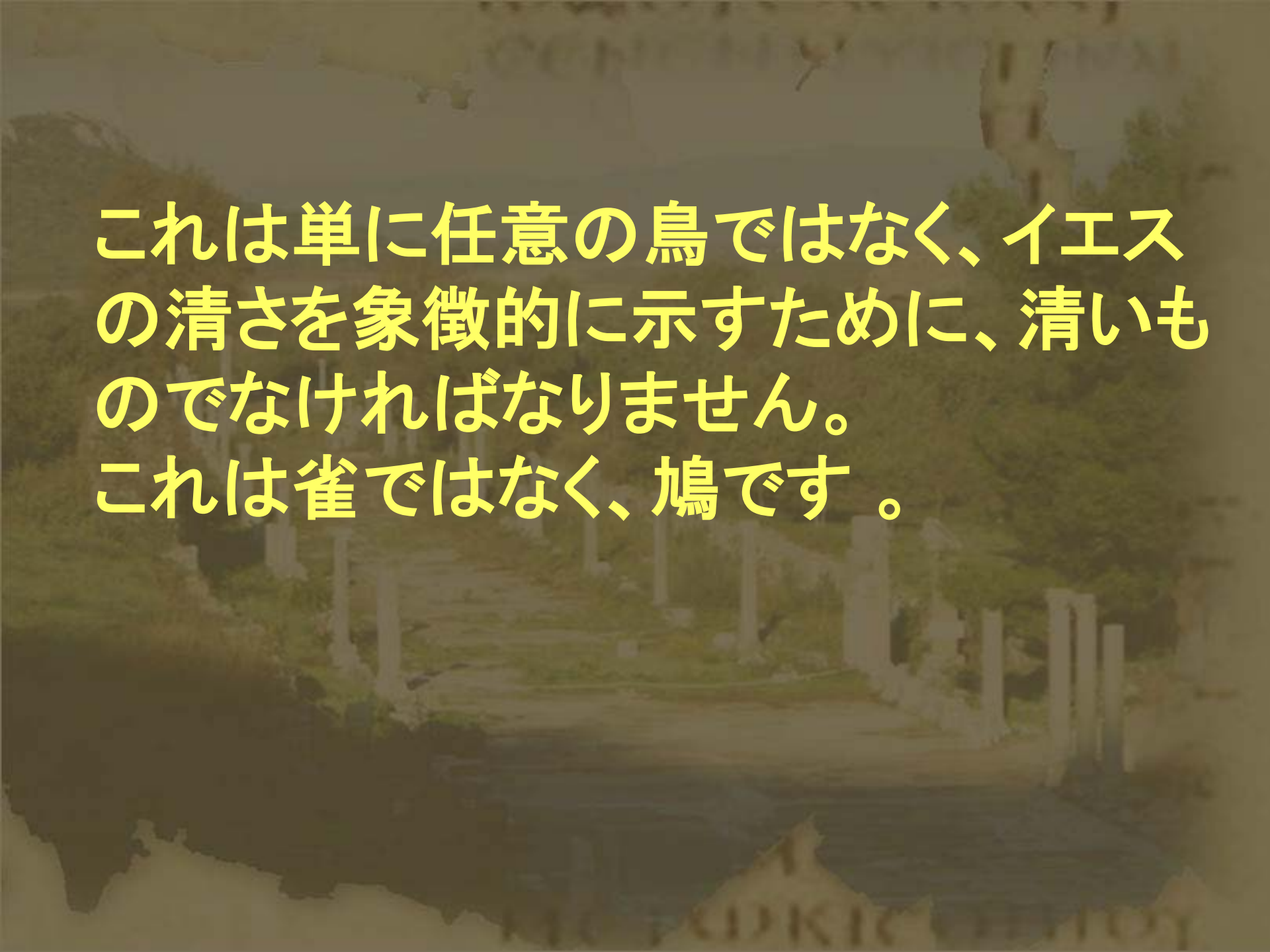
それは、いけにえにされることになっていました。

そしてその後、もう一羽はいけにえとなった鳥の血液に浸され、野で自由にされました。

その鳥は、バプテスマの水によって洗われた後に自由にされる、イエスの血によって清いと宣言されて罪が取り去られる、わたしたちを表しています。

II. 清い鳥





これは単に任意の鳥ではなく、イエスの清さを象徴的に示すために、清いものでなければなりません。
これは雀ではなく、鳩です。

ヨハネ8:46

“あなたたちのうち、いったいだれが、わたしに罪があると責めることができるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜわたしを信じないのか。”

- 彼の敵に、彼は有罪であるかと尋ねれば、彼らは「いいえ」と答えるでしょう。
- 十字架上の強盗に、彼が有罪であるかと尋ねれば、彼らは「いいえ」と答えるでしょう。
- 彼がどのように死ぬかを目撃したローマの百人隊長に尋ねれば、「いいえ」と答えるでしょう。
- 彼の家族に、彼は有罪であるかと尋ねれば、彼らは「いいえ」と答えるでしょう。

Ⅲ. 無防備な鳥



- ・ この鳥は自身を防御することはできません。その翼がつかまれても、その痛みを伝えることはできないでしょう。
- ・ 死ぬべきではない理由の申し立てさえできません。
- ・ それは、重い皮膚病の人が清められるために、根拠もなく罪なく、ただ死ななければなりませんでした。
- ・ なんと不公平なことでしょうか。

イエスは彼の主張を示したでしょうか。
彼は痛みを誰かに伝えたでしょうか。
彼はそれがどれほど不公平であった
か口にしたでしょうか。

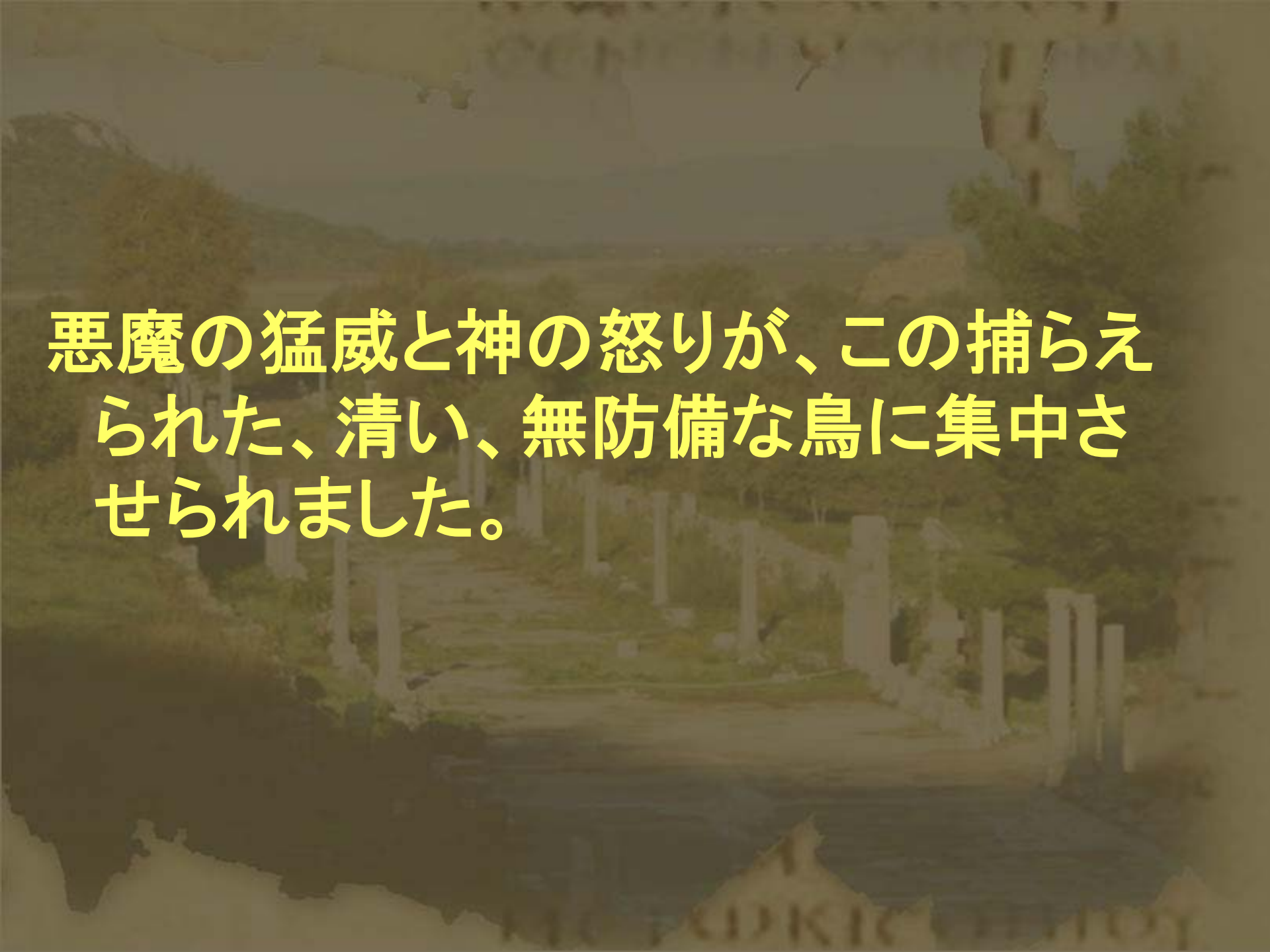
ペトロが剣を用いたかった時、イエスはそれをしまおうように彼に命じました。
なぜでしょうか。

レビ記14章にある鳥のように、彼は独りで死ぬことを望みました。

彼は独りで死ななければなりません
でした。

それは神の御心でした。

- ・ ローマの部隊全体の1本の剣も彼のために使用されませんでした。
- ・ 十字架のそばに立ち、彼を守りにきた人は一人もいませんでした。
- ・ もちろん、泣き叫ぶ女性たちは幾人かいましたが、それ以上は何もありませんでした。せいぜい、数人が気の毒さを覚えました。
- ・ 彼の最も信頼した弟子たちは彼を見離しました。
- ・ イエスは無防備な鳥の型 (type) でした。



悪魔の猛威と神の怒りが、この捕らえられた、清い、無防備な鳥に集中させられました。

IV. 自由な鳥

- ・ 自由な鳥は、清められた重い皮膚病の人を表しています。
- ・ しかし、あることが起きない限りその鳥は野で自由にされることはありませんでした。
- ・ はじめに、最初に捕らえられた、清い、無防備な鳥の血に浸されなければなりません。

賛美歌で何度も歌われてきました。

「何がわたしの罪を洗い清めることができるか。」答えは、「ただイエスの血のみ。」

「何が再びわたしを完全にすることができるか。」「ただイエスの血のみ。」

「その流された血は何と貴いか。わたしを雪のように白くする。他の泉はない、ただ、イエスの血のみ。」

(賛美歌300番「罪のけがれを」日本語直訳)

自由、自由、自由です!!!

これは、イエスの血によってのみ起こり
うることです。

- ・ 自由な鳥は、どの枝に行くことも、どの水場、川からも水を飲むことができ、自由に飛び、自由に休むことができます。
- ・ その鳥は、自分が望むあらゆる場所に行くことができます。しかし、その鳥は一羽目の血で染められています。鳥は赤く染められていて、その色はそのまま残るでしょう。以前は灰色だったかもしれませんが、その時には赤色となっています。それは別の鳥の血によって染められました。同様に、私たちの魂も、血によって染められています。
- ・ それはわたしたち自身のものではなく、他の人の血、イエスの血によるものです。そして、わたしたちが彼を離れず、再び世に絡み合わさることがなければ、それは永遠に染められ続けるでしょう。

- ・ それは、罪から解放された人が、自分のやりたいことを何でも好きにしているということの意味するのでしょうか。
- ・ そうではなく、その人は「死」から解放されたのであり、神の意志を自由に行うことができます。神の意志がその人の意志となります。

第2コリント5:14-15

“なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。”

- わたしたちは代価を持って買い取られました。彼はその血によって買い取りました。わたしたちは今彼のものです。
- 自由な鳥は空高く、高く、高く飛んでいくでしょう。気流に流され、一時的に下がるでしょうが、また飛び上がるでしょう。
- 同様に、わたしたちがどんな試練に直面しようとも、わたしたちは飛び上がる必要があります。

- ・ 重い皮膚病の人はこの過程なしで清められることができるでしょうか。
- ・ このことは、共同体に、そして重い皮膚病の人にとってどれほど重要なことでしょうか。
- ・ これ以外の別の方法を考えることはできるでしょうか。
- ・ ユダヤ人は忠実にこの方法に従いました。それが、ミシュナ, Negaim 14:1-13 (Danby, 1933年) で言及されている理由です。

- ・ バプテスマはイエスの血がわたしたちの罪を洗い流す時です。
- ・ 何がわたしたちの罪を洗い流すのでしょうか。それはバプテスマではなく、イエスの血です。
- ・ しかしながら、いつわたしたちの罪は洗い流されるのでしょうか。それは、わたしたちが過去の人生からの悔い改めを決心した後、バプテスマを受ける時です。

わたしたちの罪が赦されるために、新約聖書はわたしたちのすべきことは何だと言っているでしょうか。

使徒 2:38

すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

- ・ 悔い改める(もちろん、信じた後に)
- ・ バプテスマを受ける
- ・ 死まで忠実にとどまる

ローマ6:3-4

それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。

わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

コロサイ2:12

洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

その他ガラテヤ3:26-27、マルコ16:15-16、マタイ28:19-20、使徒22:1-16、使徒8:26-39、使徒16:25-34のような聖句および使徒言行録中の多くの事例が、同じ救いの計画が神によって規定され、初期教会で実践されたことを語っています。

すべての中で恵みはどこにあるのでしょうか。

神の恵みなしでは、神御自身、わたしたちを救うための計画さえ描くことはなかったでしょう。

わたしたちが罪びとに過ぎないときに神が和解のためにわたしたちを呼び出してくださったこと、それが恵みです。


わたしたちは神に対して何かしたことがあるのでしょうか。何もありません。

伝統が今日を規定し、聖書外の教えが付着することをわたしたちは許すべきでしょうか。

神は完全な従順を期待するのでしょうか。

ガラテア2:19-21

わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。わたしは、神の恵みを無にはしません。もし、人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。



終わり